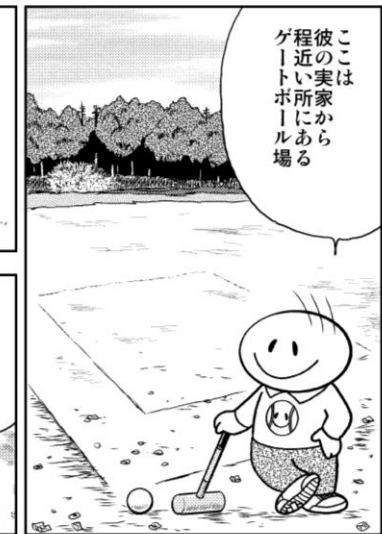
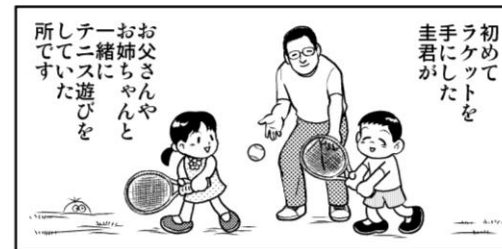
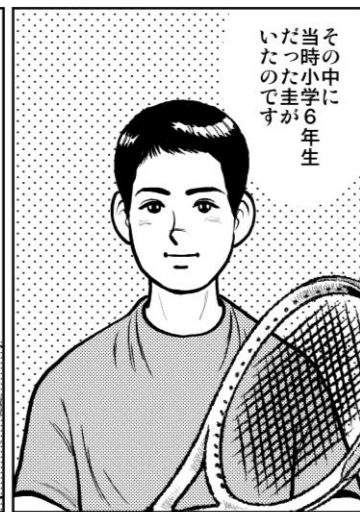
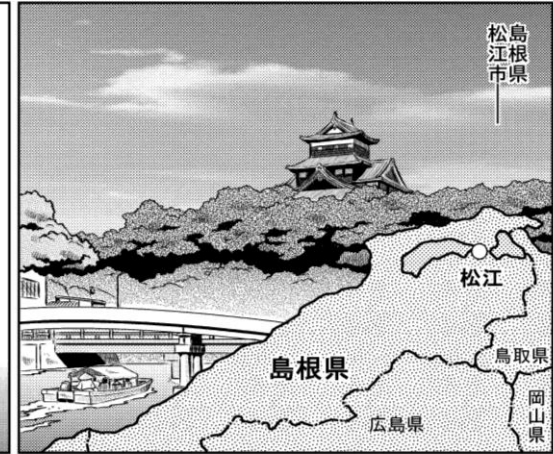
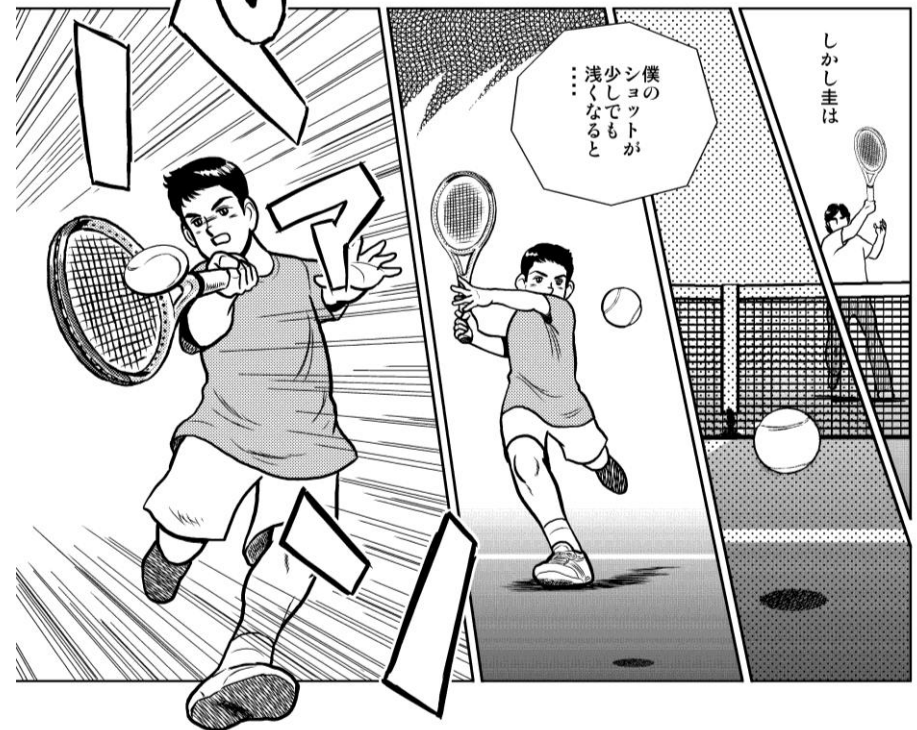
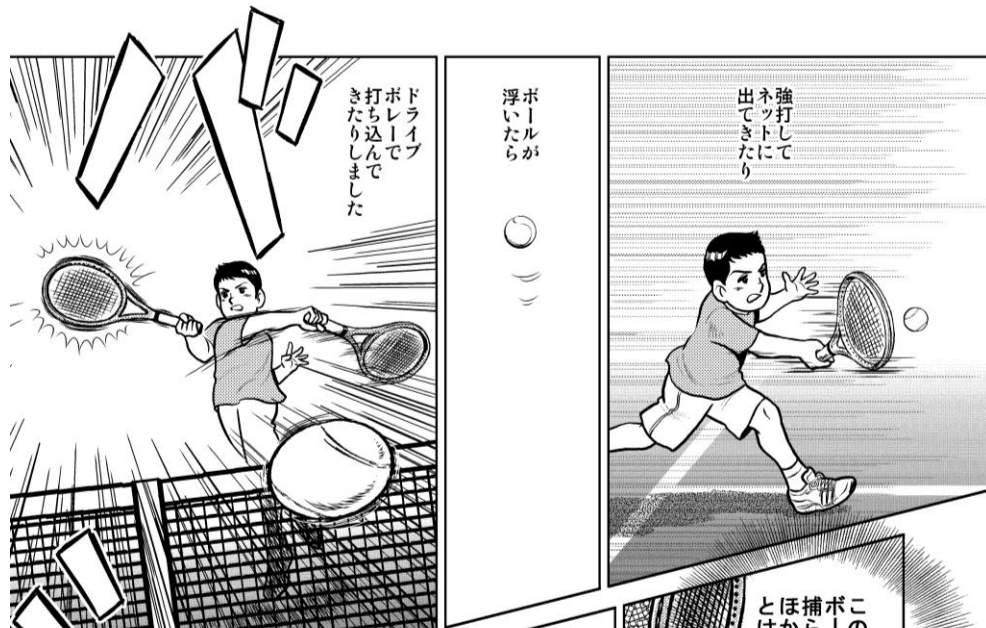


ミニブルック

漫画●石川正順
取材協力●村上武資



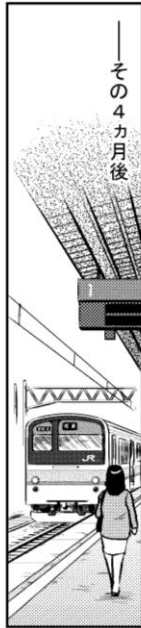




翌日、盛田が選考会に来て一緒に東京に



村上コーチは主に偶然電車の中で会う



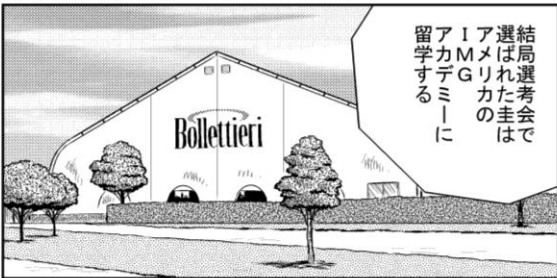
その4カ月後



占いだのすびりちゅあるだのはひとつも信じてねーでてすがバカ



アメリカは自己主張の国です。それを変えようという主観は思いません。



結局選考会ではアメリカのアカデミーに



米沢コーチは親も子も離れるのを思いました

米沢多喜や富田玄明も一緒だったし

富田くん

喜多くん



しかも今話題の「エアケイ」もこのときすでに打っていました

彼はどういうプレーをするのか想像がつかない

最後までどんなショットを繰り返さない

見ていてワクワクするよなテニス



それほど彼のプレーは衝撃的だったので



ほかの選手も指導中目撃した



この合宿は2日間でしたが



相手のセカンドサーブをリターンエース

最初のポイントで



No.1で出場したまは

試合は12時15分に開始され

相手は地元スリランカ



このとき村上監督は久しぶりに会ったまはを大きく成長を感じ取ったという



まはは村上監督喜多文明会田翔らと共にシンガポールの2日間の合宿の後開催地スリランカに乗り込んだ



ジュニアアデビスカップのアジア・オセアニア予選に出場するため

それから1年後の2004年4月



このあとまはもう一つの強大な敵と戦わなければならない



…しかし勝負事はすべてが順調に終わるとは限らない



逆をつかれたがそれを切り返す感覚というか驚きました



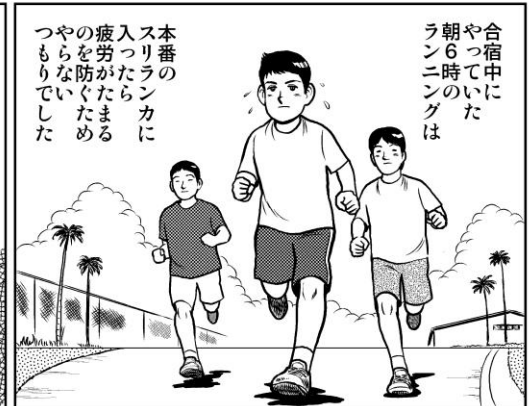
これで勢いづいたまはエースを連発

15分で第1セットを6-0と一方的に奪う



朝は走りたいです

と言ってきたのです



ところがまは

本番のスリランカに入ったら疲労を防ぐためつやもらないでいた

合宿中にやっていた朝6時のランニングは



やはりアメリカ留学は非常にとんだなと思いました

選手としての自覚と言いますかプロ意識のようなのがアメリカで培われたようです



朝20分くらいランニングをすれば目覚めてちやんと食事をとれるのだとか

※紹介した情報は2008年当時のものです